

2016年夏、二子玉川駅周辺エリアでアートフェスティバル「TOKYO ART FLOW 00」が7月29日(金)～7月31日(日)の3日間 開催！



二子玉川駅周辺のエリアを舞台にしたアートフェスティバル「TOKYO ART FLOW 00」の開催が決定いたしました。2016年度は第0回として「Human's nature—人間の自然」をテーマに7月29日(金)～7月31日(日)の3日間開催いたします。期間中、二子玉川駅周辺のショッピング施設から、二子玉川地域最大の自然資源である多摩川河川敷にいたるエリアでさまざまなプログラムを行います。

「TOKYO ART FLOW 00」は東京急行電鉄株式会社、カルチュア・コンビニエンス・クラブ株式会社、玉川高島屋S・C、楽天株式会社の4社が発起企業となり、二子玉川地域に関わる企業、地域、大学、行政などが参画する実行委員会を発足し、アートプロデュースをスパイラル／株式会社ワコールアートセンターが行うアートフェスティバルです。

メイン会場の多摩川河川敷では、スイスのラング&パウマンによる国道246号の橋脚を利用したパブリックインスタレーション「Beautiful Bridge #2」、SUPPOSE DESIGN OFFICE 谷尻誠+吉田愛による透明な球体につつまれたリビングを表現した作品「Air Stone」、映画上映を行う「246シアター」など夜の多摩川河川敷を使ってグランピングを楽しむコンテンツを予定。その他会場では、坂本美雨+CANTUSによるうたのインスタレーション「うたうまち」や1000万円あったら何を買うをテーマにビジネスリーダーたちの欲しいアート作品を集めたアートフェア「10MILLIONS」。商業施設や街路をはじめとする夜の風景をマゼンダカラーで染めていく高橋匡太による「夜景プロジェクト-マゼンタナイト-」など3日間、街全体を巻き込みながら様々なプログラムを行っていきます。

全体概要

<名称>

『TOKYO ART FLOW 00』（略称：TAF00）

（読み：トウキョウアートフロウゼロゼロ）

<キュレーションテーマ>

「Human's Nature - 人間の自然」

都市と自然の接点・二子玉川河川敷において、人間らしさそのものを指す言葉として「Human's Nature」をテーマとし、アーティストと市民による創造と探求の場を形成する。

<方針>

- ・都市とアートの新しい関係づくり - 地域、企業、大学などとの連携プログラムの実践 -
 - ・シンボルとしての河川敷の活用 - 豊かな河川敷からの文化発信 -
- ・文化のオーディション機能を果たす - 国際的な作家によるランドスケープアート制作 -

<日時>

2016年7月29日（金） 12:00～23:00

7月30日（土） 10:00～23:00※TAFアートキャンプの一部 オールナイトで実施

7月31日（日） 10:00～20:00

※雨天時、一部縮小実施

<会場>

二子玉川駅周辺

（多摩川河川敷、玉川高島屋S・C、二子玉川ライズなど）

<主催>

TOKYO ART FLOW 00 実行委員会

（カルチュア・コンビニエンス・クラブ株式会社、世田谷区、
公益財団法人 世田谷区産業振興公社、玉川高島屋S・C、玉川町会、
多摩美術大学、東京急行電鉄株式会社、東京都市大学、
ドッグウッドプラザ、二子玉川エリアマネジメンツ、楽天株式会社）

<後援>

国土交通省関東地方整備局京浜河川事務所、ミズベリングプロジェクト事務局、スイス大使館

<特別協力>

玉川高島屋S・C、二子玉川ライズ

<助成>

スイス・プロ・ヘルヴェティア文化財団

<実行委員長>

建畠哲（多摩美術大学学長）

<アートプロデューサー>

松田朋春（スパイラル／株式会社ワコールアートセンター シニアプランナー）

シンボルロゴ



タイトルに込めた思い

“flow”には、流れる、満たされる、あふれる、巡るなどの意味があります。二子玉川には誰もが知る最大の自然資源である多摩川があり、本企画はその河川敷の公共的な活用が主目的としてあります。そして、そこを舞台に、言葉、思考を交わし合うこと、美しく楽しいものに触れること、展示作品のみならず食や音楽も含め、既成枠を超えて広く定義する「アート」を紹介します。本タイトルは、これらの活動を通じて人々が交流し、インターネットのようなテクノロジーや隣人との会話を通じて拡散され、二子玉川を新たな東京の文化拠点に位置付けていくことを狙いとして命名されました。

ロゴの考え方

本ロゴは、漢字の「川」の字をモチーフにして作られました。国際的な響きを意図した英語のフェスティバルタイトルと、日本語のやわらかな融合がフェスティバル全体を包み込みます。また、時折ロゴの周辺に鮎のキャラクターも現れます。

グラフィックデザイン：WALTZ. (川崎敏弘、霧沢咲子)

<テーマカラー>

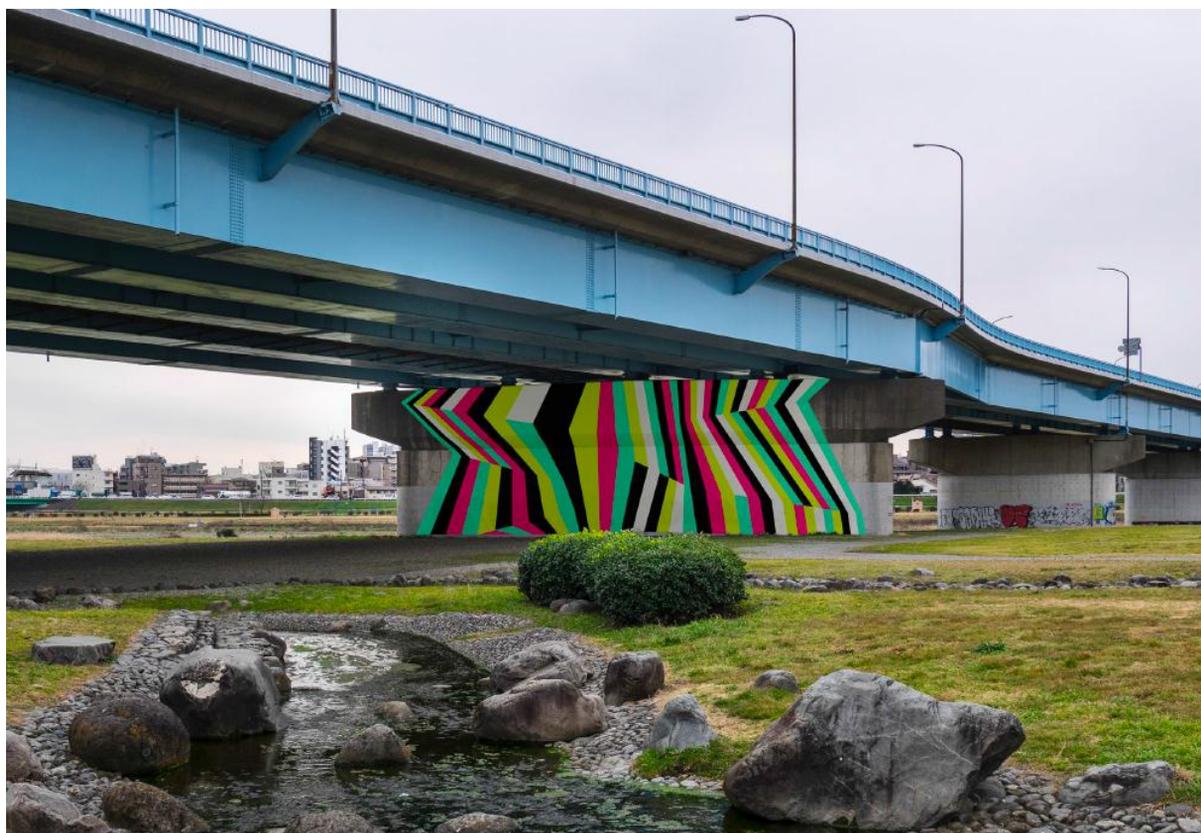
マゼンタ

新しい街や都市開発エリアを「グリーンカルチャー」と表現することから着想を得て、そこに足りないものをアートが補うという考えを元に、今回のテーマカラーに「グリーン」の補色である「マゼンタ」を使用しています。

<全体MAP>



Beautiful Bridge #2



スイスのラング&バウマンによる国道246号の橋脚を利用したパブリックインスタレーションを実施。来年（TOKYO ART FLOW 01）から始まる国際コンペティションによるTAFパブリックアートコレクションのデモンストレーションとして行う。

ラング&バウマン (Lang/Baumann)

1972年、スイス・ベルン生まれのサビナ・ラングと1967年、サンフランシスコ生まれのダニエル・バウマンというふたりのスイス人アーティストによるユニット。構造物、建築と作品がどのように作用しあうのかに着目し、展示空間そのものを変換、鑑賞者を作品の一部に取り込む制作を得意としている。



夜景プロジェクト

マゼンタナイト

アーティストの高橋匡太が商業施設、街路灯など街を巻き込みながら夜の風景をテーマカラーのマゼンダ色で染めていくプロジェクト。

■場所：玉川高島屋S・C、YANAGIYA、二子玉川ライズ ドッグウッドプラザ、兵庫島公園、二子玉川公園 ほか



この鐘を鳴らすのはあなた

●この鐘を鳴らすのはあなた / 玉川高島屋S・C、二子玉川ライズ、ドッグウッドプラザ
鐘を鳴らすとライトアップのカラーがチェンジする来場者が街のカラーを変化させるプログラム。

おそいおそいおそい詩

●おそいおそいおそい詩 / YANAGIYA

詩人の集まり「oblaat（オブラート）」とのコラボレーション。

一文字ずつの連詩（数名により交互）で、書き上げた詩を繋いでいく作品

高橋匡太+oblaat（山田亮太、河野聡子、石原ユキオ、高塚謙太郎、中家菜津子）

oblaat（オブラート）は、メディア自体を詩的な操作対象にしたアートユニット。本の世界に閉じ込められていた詩の仕事を、プロダクト、空間、情報技術の場で展開する。単純に、詩を本以外の場所で鑑賞させることを指向するのではなく、言葉を用いて（あるいは用いないで）物質や空間を詩的な存在に書き換えていくような表現を指向している。様々なジャンルの同人からなる組織で、同人名は個々の作品制作に関わった作家名として公表される。

提灯行列ランドスケープ

●「Glow with City Project in TAF」提灯行列ランドスケープ
/ 夕焼けステージ（二子玉川公園）～TAFアートキャンプ（兵庫島公園）

LEDライトによるカラーチェンジをする提灯行列。

29日初日の日没後にレセプション参加者が参列する。

つぶやく街灯

●つぶやく街灯 / 兵庫島公園

街灯の光が、モールス信号のリズムで明滅することで詩を語りかける。

詩人の谷川 俊太郎とのコラボレーション作品。



photo: Mizuho Fukahori

谷川俊太郎（たにかわしゅんたろう）

1931年東京生まれ。詩人。

1952年第一詩集『二十億光年の孤独』を刊行。1962年『月火水木金土日の歌』で第四回日本レコード大賞作詞賞、1975年『マザー・グースのうた』で日本翻訳文化賞、1982年『日々の地図』で第34回読売文学賞、1993年『世間知らず』で第1回萩原朔太郎賞、2010年『トロムソコラージュ』で第1回鮎川信夫賞など、受賞・著書多数。詩作のほか、絵本、エッセイ、翻訳、脚本、作詞など幅広く作品を発表。近年では、詩を釣るiPhoneアプリ『谷川』や、郵便で詩を送る『ポエメール』など、詩の可能性を広げる新たな試みにも挑戦している。

高橋匡太（たかはしきょうた）

1970年京都生まれ。1995年京都市芸術大学大学院美術研究科彫刻専攻修了。

光や映像によるパブリックプロジェクション、インスタレーション、パフォーマンス公演など幅広く国内外で活動を行っている。東京駅100周年記念ライトアップ、京都・二条城、十和田市現代美術館、など大規模な建築物のライティングプロジェクトは、ダイナミックで造形的な映像と光の作品を創り出す。多くの人とともに作る「夢のたねプロジェクト」、「ひかりの実」、「ひかりの花畑」、「Glow with City Project」など大規模な参加型アートプロジェクトも数多く手がけている。1995年キリンコンテンポラリーアワード'95最優秀作品賞、2005年京都府美術工芸新鋭選抜展2005最優秀賞、五島記念文化賞美術新人賞、グッドデザインアワード2005（環境デザイン部門）、2008年京都府文化賞奨励賞、2010年京都市芸術新人賞、DSA日本空間デザイン賞2015優秀賞、などを受賞。



Air stone



川辺の石ころのように、時をかけて角がなくなり佇まう自然に寄り添う形を模した、大きな透明のドーム型インスタレーション。日昼はもちろんのこと、夏の夜空を見上げて星について語り合うなど、昼夜問わず自由な時間を過ごせる未知なる体験空間が現れる。

SUPPOSE DESIGN OFFICE 谷尻誠 + 吉田愛 (サポーズデザインオフィス たにじりまこと+よしだあい)

SUPPOSE DESIGN OFFICEは、谷尻誠・吉田愛率いる建築設計事務所。住宅、商業空間、会場構成、ランドスケープ、プロダクト、インスタレーションなど、仕事の範囲は多岐にわたる。広島・東京の2カ所を拠点とし、インテリアから住宅、複合施設など国内外合わせ多数のプロジェクトが進行中。これまで手がけた作品は住宅だけでも100棟を超え、2010年ミラノサローネでの光のインスタレーション〈Luceste : TOSHIBA LED LIGHTING〉や〈まちの保育園〉などの公共施設、最近では海運倉庫を改修した複合施設 ONOMICHI U2をオープンさせるなど地域と人の関わりをつくる仕事なども手がける。



二子玉川探景車



会場を回遊する借景空間。参加者は、まるでかつての二子玉川を想像させるかのような作品に乗り、車夫に曳かれゆったりと二子玉川沿いを回遊する。川岸に見えるビル群を含む現代の二子玉川に「眺め」を見出そうとする企画。道中、馬と行き交うのもお楽しみ。

目【M é】

（南川憲二／ディレクター 荒神明香／アーティスト）

（みなみかわけんじ こうじんはるか）

個々のクリエイティビティを特性化し、連携を重視するチーム型芸術活動。
中心メンバーは、アーティストの荒神明香、ディレクターの南川憲二、制作統括の増井宏文の3名。
これに加えインストーラーなど様々なクリエイターとの共同作業により作品を実現させている。
果てしなく不確かな現実世界が実感に引き寄せられるような体験を作品として展開する。
主な作品として、2014年「たよりない現実、この世界の在りか」（資生堂ギャラリー、東京）、
2014年「おじさんの顔が空に浮かぶ日」（宇都宮美術館 館外プロジェクト、宇都宮）
2015年「東京アートミーティングVI “TOKYO” - 見えない都市を見せる」（東京都現代美術館）
などがある。2016年は、瀬戸内国際芸術祭、さいたまトリエンナーレに向けて制作中。



TAF アートキャンプ

キャンプファイアトーク

焚き火を囲んで、アーティストと参加者との対話を楽しむトークイベント

ナビゲーター： 紫牟田伸子

- ・ことばと写真の焚き火：御徒町凧、佐内正史
- ・未来とデザインの焚き火：山中俊治、落合陽一
- ・自然と人の焚き火：清田益章、宇川直宏

紫牟田伸子 (しむたのぶこ)

編集家/プロジェクトエディター/デザインプロデューサー。美術出版社『デザインの現場』『BT/美術手帖』、日本デザインセンターを経て、2011年に独立。「ものごとの編集」を軸に企業や社会・地域に適切に作用するデザインを目指し、地域や企業の商品開発、ブランディング、コミュニケーション戦略などに携わる。主な著書に『シビックプライド：都市のコミュニケーションをデザインする』『シビックプライド2：都市と市民のかかわりをデザインする』（共同監修/宣伝会議/2008、2015）、『編集学：つなげる思考・発見の技法』（単著/幻冬舎/2014）『シビックエコノミー：私たちが小さな経済を生み出す方法』（監修・共著/フィルムアート社/2016）など。



御徒町凧 (おかちまかいと)

1977年生まれ、東京都出身。詩人。これまでに第一詩集『人間ごっこ』（06年）、第二詩集『いつも、マシン』（07年）、第三詩集『人に優しく』（09年）を刊行。また、2009年から10年の月例朗読会での作品をまとめた、詩集『朗読会の記録（一）家具』、『朗読会の記録（二）道路』、『朗読会の記録（三）空気』も刊行している。森山直太郎のほとんどの作品の共作者でもあり、08年に森山直太郎の楽曲『生きてることが辛いなら』で日本レコード大賞作詞賞を受賞。演出家としても森山直太郎のライブステージを構成・演出する他、05年に森山直太郎音楽劇場公演『森の人』、06年には「カイトボックス」名義で演劇舞台『なにげないもの』、12年には森山直太郎劇場公演『とある物語』を作・演出。さらに09年『真幸くあらば』で映画初監督。同作は第22回東京国際映画祭「日本映画・ある視点」部門にノミネートされた。



佐内正史 (さないまさし)

写真家。
常に写真の時代をリードし続け、出版した写真集は多数。2002年に写真集『MAP』で「第28回 木村伊兵衛写真賞」受賞。2008年には写真集レーベル「対照」を立ち上げる。最新刊は『度九層』（どくそう）。2015年には作家・舞城王太郎との共著「深夜百太郎 入口」「深夜百太郎 出口」（イマココ社）が連続刊行された。
現在、アストルティア内を精力的に撮影中。



山中俊治 (やまなかしゅんじ)

デザインエンジニア/東京大学大学院情報学環教授。1982年東京大学工学部卒業後、日産自動車を経て、1987年フリーのデザイナーとして独立。1994年リーディング・エッジ・デザインを設立。2008～12年慶應義塾大学教授、2013年より東京大学教授。デザイナーとして腕時計から鉄道車両に至る幅広い工業製品をデザインする一方、技術者としてロボティクスや通信技術に関わる。大学では義足や感覚に訴えるロボットなど、人との新しい関係を研究している。2004年毎日デザイン賞受賞、ドイツIF Good Design Award、グッドデザイン賞受賞多数。2010年「Tagtype Garage Kit」がニューヨーク近代美術館パーマネットコレクションに選定。



落合陽一 (おちあひよういち)

1987年生まれ。メディアアーティスト・筑波大学助教・デジタルネイチャー研究室主宰・VRC理事。筑波大学でメディア芸術を学び東京大学で学際情報学の博士号を取得（学際情報学府初の早期修了者）。2015年より筑波大学に着任。コンピュータと人の新たな関係性を実証するため実世界志向コンピュータグラフィクスやヒューマンコンピューテーション、アナログとデジタルテクノロジーを混在させたメディアアート表現などを用いて表現活動を行っている。World Technology NetworkよりWorld Technology Award 2015、情報処理推進機構よりスーパークリエイター/天オプログラマー認定など受賞歴多数。講演活動や研究のアウトリーチ活動に加え、企業・アーティストとのコラボレーション作品・展示を発表し国内外で注目を集めている。



清田益章 (きよたまますあき)

超能力者～イノリスト（祈人）。東京生まれ。
'74年のユリ・ゲラー初来日を機に『超能力者』としての自覚をする。
その後、国内外のメディアへの出演、防衛大学や電気通信大学、その他国内外の研究機関など、超能力研究に被験者として参加。現在、法具・金剛杵（Vajra）を両手に、祈りと踊りを融合させた独自の祈り方ψおのりψによって、宇宙・自然の力や法則を体感、体得し続けている。



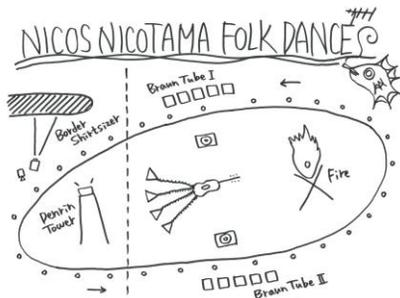
宇川直宏 (うかわなおひろ)

映像作家/グラフィックデザイナー/VJ/文筆家/京都造形芸術大学教授。そして"現在美術家".....幅広く極めて多岐に渡る活動を行う全方位的アーティスト。既成のファインアートと大衆文化の枠組みを抹消し、現在の日本にあって最も自由な表現活動を行っている自称「MEDIA RAPIST」改め「MEDIA THERAPIST」。2010年3月にこれまでの全てのキャリアを断ち切って、突如個人で立ち上げたライブストリーミングスタジオ兼チャンネル「DOMMUNE」は、開局と同時に記録的なビューアー数をたたき出し、国内外で話題を呼び続ける"文化庁メディア芸術祭推薦作品"。現在、宇川の職業欄は「DOMMUNE」。 <http://www.dommune.com>



TAF アートキャンプ

「エレクトロニコス・ファンタスティコス！」 in 二子玉川



音楽家/美術家の和田永による、古家電を新たな電子楽器として蘇生させ、合奏する祭典を目指すプロジェクト『エレクトロニコス・ファンタスティコス！』が二子玉川にやってくる。

奇妙な楽器たちが町中を徘徊。高架下では、快快とコラボレーションして新たに創作した電磁フォークダンスパーティー《NICOS NICOTAMA FOLK DANCE》を開催。キャンプファイヤー、ボーダーシャツアイザー、電輪塔、ブラウン管ガムランのまわりを演奏したり踊ったりしながら、真夏の夕刻を楽しみましょう！

■ボーダーシャツアイザー / Border Shirtsizer

ファッションと音楽のホントウの一体化。ビデオカメラでボーダーシャツを撮影し、シマシマから音が生まれてくる。あなたのボーダーシャツからも音が出る！？

■電輪塔 / Denrin-Tower

電波を発するあやしげな塔。ラジオを持って近づくと、不思議なことに様々な音色を奏で始める。家庭にあるAMラジオとリモコンでも演奏可能。ぜひラジオとリモコンを持参して欲しい！

■ブラウン管ガムラン / Braun Tube Gamelan

ブラウン管から発せられる電磁波を体でキャッチ！ブラウン管テレビを鍵盤打楽器のように演奏するプロジェクト。



和田永 (わだえい)

1987年生まれ。音楽家/美術家。オープンリール式テープレコーダーを演奏するグループ「Open Reel Ensemble」首謀者。各国でライブや展示活動を展開。ISSEY MIYAKEのパリコレクションでは、現在までに6期連続でライブ音楽を担当。2015年より役割を終えた古家電を新たな電子楽器として蘇生させ合奏する祭典を目指すプロジェクト「エレクトロニコス・ファンタスティコス！」を始動させ取り組んでいる。



246シアター

橋脚の下に現れる巨大スクリーンでは映画鑑賞やライブなどピクニック気分では映像を楽しむコンテンツのほか、体験型のイベントを予定。

映画上映会

映画「マイ・アーキテクト ルイス・カーンを探して (116分)」を放映。
イヤホンによる視聴を実施。

TAMABI コレクション

多摩美術大学学生による映像作品の放映。

アニメーション：

ひらのりょう / 奥山光貴 / いよりさき / 勝又梓 / 檜佐佳子 / クワガタ / 猪俣直也 / 尾関隆寿 / 諸岡美由起 / 山口真澄 / 吉崎愛果 / 関口和希 / 高橋拓也

インスタレーション記録映像：

赤松裕子 / 湯野早織 / 持田寛太 / 石原璃奈 / 岡本絢子 / 加治洋紀 / 小林康

ドローン映像 (仮)

ドローンで撮影をした映像をアート作品に仕立てて、246シアターにて放映。

カルチャー・コンビニエンス・クラブ
参加アートプログラム

CCC

多摩美術大学参加アートプログラム



多摩美術大学

カルチャー・コンビニエンス・クラブ
参加アートプログラム



TAF アートキャンプ

ワークショップ&ミュージック



【ロックバランシング】石花会

発祥はアメリカ、イギリスと言われ、自然石を使い、接着剤等は一切使わずに、絶妙のバランスで石を積んでいくバランスアート。

【ネイチャーガイド&星空鑑賞】

屋外リビングにて水の生きものや星空の鑑賞などを実施。

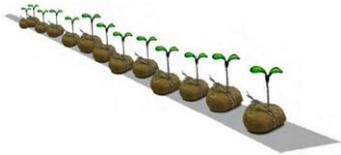
■協力：株式会社ビクセン

【ミニライブ】

様々なアーティストが河原で演奏を行う。

【ワークショップ】さとうゆうじ、ゆき

河原の石から不思議な芽吹きを表現したワークショップを実施。



石花会 (いしはなかい)

関東を中心に日本各地で、バランスアート石花 (Rock Balancing) のワークショップやイベントの活動をしている。多くの人に、石花や石そのものの魅力を理解してもらい、実際に石を手に取り、積んだり立ててもらうことで、不思議な癒しを味わってもらうことを目的とする。



さとうゆうじ

1958年生まれ、東京造形大学彫刻科卒。ゆき1970年生まれ、多摩美術大学彫刻科卒。四国讃岐で「y工房」を設立、2人で制作を続けるかたわら、ラオスの子どもたちの絵を集めてボランティアCadを作ったり、東日本大震災で「五右衛門風呂」をトラックに積んで入浴支援活動をするなど、アートをキーワードに社会的な関わりを進めている。



To-UMA



Together UMAの略でト・ウマ。

期間中、馬が2〜3頭常駐し、社会で活躍する馬「社会馬」として昼夜仕事を行う。馬の居る二子玉川の風景が現れる。

【スタッフ馬】

スタッフが乗ってフェスティバル会場を見回り、落とし物届けなどする。

■場所：一部会場を巡回

&H.inc. with ZNEM (アンドエイチ)

新しい「場 (ba) & 間 (ma)」「メディアとしての空間プロデュース」と本物の技に裏付けされた新しい伝統の創造を手掛けるZNEM三好和彦と、あらゆるモノ、コトに、クリエイティブに馬をプラスすることによって、これからの馬の価値や、生き方を発見する場を作り出すプロジェクトを行う&H.incのコラボレーション。



アートフェアスタジオ

「10MILLIONS」



1●Millions

《10MILLIONS》 伊藤悠+藤原さゆり

日本を代表する起業家が率先して日本の文化も牽引してゆくきっかけを作る、新しいかたちのアートフェア。将来的に、二子玉川が「アートが買える街」としての新しい顔を持つよう、国際規模への発展の可能性を模索する。経営とアートの視点の共通点や、これからの日本経済、社会へのメッセージを作品展示で視覚化する。また、開催に際し、経営者の姿勢とアートへの視点をひとりひとりインタビューし記録した。

[INTERVIEWEE (50音順、敬称略)]

熊谷正寿 (GMOインターネット株式会社代表取締役会長兼社長)

諏訪光洋 (株式会社ロフトワーク代表取締役)

遠山正道 (株式会社スマイルズ代表取締役社長)

野尻佳孝 (株式会社テイクアンドグヴ・ニーズ代表取締役会長)

松本大 (マネックスグループ株式会社代表取締役社長CEO)

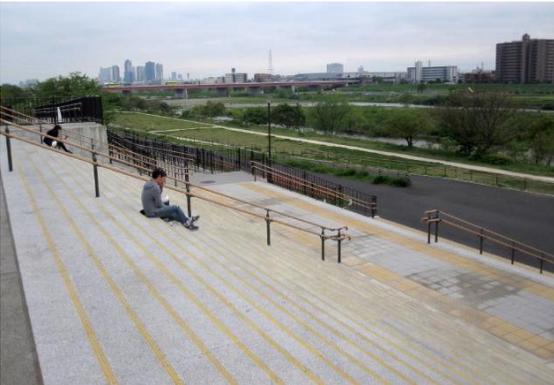
ほか

■場所：iTSCOMスタジオ & HALL

夕焼けステージ

サウンドスケープ

楽天参加アートプログラム



東京フィルハーモニー交響楽団の収録された音源を1時間に1回、5分程度流す。

東京フィルハーモニー交響楽団

1911年創立。日本のオーケストラとして最古の歴史をもつ。メンバー約140名、定期演奏会などの自主公演、新国立劇場などでのオペラ・バレエ演奏、放送演奏、教育プログラムのほか海外公演も積極的に行い高い評価を得る。

1989年からBunkamuraオーチャードホールとフランチャイズ契約を結んでいる。また東京都文京区、千葉県千葉市、長野県軽井沢町、新潟県長岡市と事業提携を結び、各地域との教育的、創造的な文化交流を行っている。桂冠名誉指揮者チョン・ミョンフン、特別客演指揮者ミハイル・ブレトニョフ、首席客演指揮者アンドレア・バッティストーニ。理事長は三木谷浩史 (楽天株式会社 代表取締役 会長兼社長)。



まちなかプログラム

うたうまち



二子玉川の街の各所でアートや音楽と出会う場を創出。

「坂本美雨」、「聖歌隊CANTUS」が送る1日限定のインスタレーション。ライズ入口のガレリア部分を大聖堂に見立て、事前公募した子供達（天使）と共に、二子玉川を歌声で染めていく。子供達の笑い声、雑踏、行き交う電車の音、全てを二子玉川の「うた」となぞらえまちを作っていく。

坂本美雨 with CANTUS

音楽活動以外にもラジオのナビゲーターや執筆等マルチに活躍中のシンガー・坂本美雨が、かねてより交流のあった聖歌隊「CANTUS（カントゥス）」とコラボレーションしたコーラス・プロジェクト。2016年3月「pie jesu」（ピエ イェズ）を配信シングルとしてリリース。6月22日ミニアルバム「Sing with me」リリース予定。



TAFコラボレーション

【多摩美術大学×トイレの紙専門店】

楽天参加アートプログラム



再生紙100%のトイレ紙専門店
トイレの紙専門店

楽天市場に出店する100%再生紙のトイレ紙を製造する老舗メーカー「トイレの紙専門店」が多摩美術大学とコラボし、オリジナル・トイレ紙を制作。デザインは、多摩美学生内でのコンペより最大9デザイン選定、TAF会場内ストアおよび楽天市場で限定販売。

【BEAMS】

TAFとのコラボとして、スタッフがまとう大判バンダナをオリジナル制作。



アクトインフォメーション



ウェルカムチキュージン

多摩美術大学上野毛校舎を卒業し、東京を中心として活動する劇団「快快（ファイファイ）」が送る、本作品は観客が快快と共にTOKYO ART FLOW 00 の会場である二子玉川と一緒に歩き回りながらパフォーマンに触れることができる「ツアー型演劇」となっております。ツアーの目的はスバリ「宇宙人を探す」こと。日常感、生活感あふれる二子玉川の街中に果たして宇宙人はいるのでしょうか、、、。

快快（FAIFAI）

2008年結成。東京を中心に活動する劇団。演劇という枠に揺さぶりをかけ続ける「Trash & Freshな日本の表現者」として国内外で注目を集める。2010年代表作「My name is I LOVE YOU」でスイスのチューリヒ・シアター・スペクタクルにてアジア人初の最優秀賞受賞。2012年「りんご」が第57回岸田國土戯曲賞候補となる。近作に「6畳間ソーキュート社会」（2013）、「へんしん（仮）」（2014）、ハイバイ岩井秀人氏を演出に迎えた「再生」（2015）は2,000名を超える動員を記録。

